

菅支那 説 哲學者。明治二十二年七月二十五日兵庫縣水戸野香田町
生れ、昭和五十七年十月歿（八九一八二）。初め支那子と号す。井上雅
二、秀子夫妻の長女。大正十年日本女子大學校英文學部卒業後アメリカ
カレッジ、昭和二年エール大醫院にて「ライノプニッツとフイビニアによる
意志の性質」により博士號取得。同生管園吉と結婚、翌年母校教授と
なる。二十四年日本社會學專業學校連盟會長。日本最初の女性哲學教授
として知られる。

著書に『哲人評傳』（昭和二十一年四月五日福岡・金文堂出版部）、
『哲人群像』（昭和二十四年二月二十一日叢書房。復刻版・六十二年
十月七日菅支那先生忌徳會）、『成瀬仁蔵先生の女子教育』（昭和
五十六年六月一日）『成瀬仁蔵先生の女子教育』（菅支那著）刊行
会）等。譯書に「ニコライ・ブルヂヤイエフ著『近代世界に於ける人間
の運命』（昭和二十一年十一月二十日新教出版社）がある。

